

平成24年
8月20日発行

『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、様々な行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。

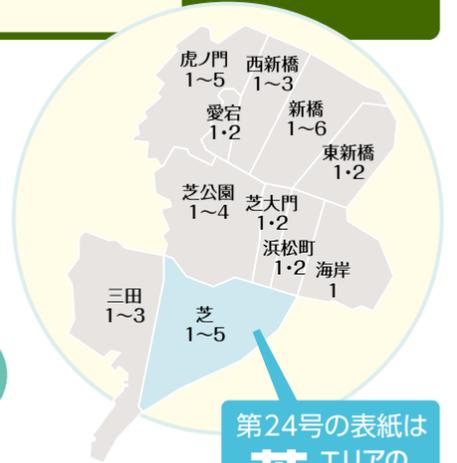


今年も夏野菜が実りました

夏のまぶしい日差しを浴びて、 色とりどりの野菜が 実っています



戸板女子短期大学の
屋上菜園



第24号の表紙は
芝エリアの
話題です

ここは、芝2丁目の戸板女子短期大学三田キャンパス7階テラスにある屋上菜園「芝ファーム (Shiba Farm)」です。ここで

は、食物栄養科の学生によって主に夏野菜とハーブが栽培されています。

今年で創立110周年となる戸板女子短期大学は、港区芝地区総合支所のマスコットキャラクター「芝次郎」のデザインやごみ集積所の看板をデザインするなど、港区と深い関わりがあり、平成21年(2009)3月に連携協力に関する基本協定を港区と結んでいます。

食物栄養科は栄養士養成を目的とする学科ですが、食育を一つの柱とし、学生が屋上菜園の管理、野菜の栽培を通じて、食について考える習慣や食に関する様々な知識、意義を学んでいます。栽培する野菜の種類も学生たち自身が考え、今年はトマト、ナス、パプリカ、ジャガイモなどを栽培しています。年によってはうまく育ってくれないときもありますが、みんなで意見を出し、試行錯誤しながらも食育の知識と経験を身につけています。また、地域の皆さんを招待し、収穫&調理実習のイベントを開催するなど地域と大学との結びつきも深めています。

11月の戸板祭で芝ファームの成果を発表する予定です。この機会と一緒に食育について考えましょう!



芝ファーム全景

赤く実ったトマト



info 戸板女子短期大学
芝2-21-17
TEL 03-3452-4161(代)

日英交流あけぼの エルギン卿と西應寺

芝商店街の細い路地を曲がり奥へ進むと、子どもたちの元気な声が聞こえてきます。その声のする方へ足を運ぶと、浄土宗西應寺と、みなと幼稚園があります。

室町時代に建立された 由緒ある寺院

西應寺は田中山相福院西應寺と号し、鎌倉幕府第14代執権北条高時の末娘時姫が出家得度した光蓮社照善明寶上人(応永5年(1398)寂)が開山しました。徳川家康が江戸に入府した天正19年(1591)には寺領10石の御朱印状を拝領。当時の住職は、中興の祖と称される観蓮社智誓存岡大和尚といえます。

幕末、最初の オランダ公使宿館が置かれる

西應寺には、幕末の日蘭修好通商条約により最初のオランダ公使宿館が置かれたといいますが、慶応3年(1867)の三田・薩摩屋敷焼き討ち事件の際に記録はすべて焼失してしまい、当時の状況が残されていません。その後再建された本堂は、太平洋戦争により再び焼失。幸い戦火を免れた本尊を奉るため、昭和21年(1946)仮本堂建築からの復興が始まります。現在の建物は昭和35年(1960)に再建されたものです。

当時は寺院が最も安全だった

明治維新前、鎖国を解いた日本と通商条約を結ぶために各国から公使が来日し、江戸幕府は外交使節が駐在する宿舎または公館を用意する必要に迫られました。江戸の南端で、上陸地に近い海に面していたため、港区、特に芝・麻布地域の寺院が仮の公館に充てられたといえます。尊王攘夷の時代、過激な浪士たちからの襲撃を防ぐには、寺院が最も安全だったでしょう。仮公使館となった寺院は「異人寺」と呼ばれ、西應寺もその一つになりました。

エルギン卿一行の 滞在とエピソード

西應寺には、日英修好通商条約締結のため来日したイギリス人エルギン卿一行が滞在しています。安政5年(1858)7月4日、エルギン卿は艦船4隻を率いて長崎に來航し、そのうち3隻が東上り品川沖に碇泊。7月8日東禅寺前海岸から上陸し、当初宿泊予定の青龍寺に向かいます。ところが青龍寺が手狭だったため、宿泊先を西應寺に変更します。また、別の文献では芝新銭座の江川太郎左衛門調練場(大砲の練習場)から上陸したという記録もあります。一行は西應寺までの道筋を、大変にぎやかなパレードを行いながら進んだそうです。当時の地図を広げ、文献どおりの道筋を追うと、確かに上陸

地と西應寺が近いことがわかります。

エルギン卿と西應寺にまつわるエピソードには、興味深いものがいくつもあります。その一つに古典手品の「胡蝶の舞」があります。紙で作った蝶を扇であおぐと、生きている蝶のように空中を舞い戯れるという、熟練の技を要する芸です。手品を最初に海外に紹介した文献が「エルギン卿遣日使節録」であるといわれています。西應寺滞在の間、エルギン卿は「胡蝶の舞」を楽しんだのでしょうか。

もう一つは「乾杯の起源」。西應寺で日英修好通商条約を協約した後、約款の補足のためにエルギン卿と幕府の井上信濃守清直が交渉した時のこと。エルギン卿が英国国王の健康を祝して杯を交わす習慣を紹介した際、そのような習慣のなかった日本の井上清直が思わず立ち上がり「〇〇!」と叫び、着席したという記録があります。「カンパイ!」と言ったのではないかという説がありますが、定かではありません。

戦後まもなく幼稚園を創設

戦後まもない頃、東京には孤児があふれ、大人同様に子どもも心が荒れ果てていました。これからの日本を背負っていくべき幼児たちの教育が大切と、西應寺の第38世住職浄善和尚が昭和23年(1948)「みなと幼稚園」を創設し、第39世北條雅道現住職の父である北條泰雅さんが現在園長を務めています。

エルギン卿が滞在した西應寺。日本の歴史上、大変重要な役割を果たした、外交の中心地でした。今日に至るまで、子



西應寺 本堂全景

どもたちの幸せな笑顔を静かに見守ってきた西應寺。子どもたちの遊戯の合間の一瞬静かになった時、寺にたずみ、眼を閉じると、グローバルな役割を果たした幕末の外交の中心地で、数々のドラマがよみがえります。

(文・写真 ■ 早川 由紀)

- 参考文献:
北條浄善発行・仏教と文化社編「西應寺史」
港区立港郷土資料館編・発行「江戸の外国公使館」
ローレンス・オリファント著・岡田章雄訳「エルギン卿遣日使節録」雄松堂
維新史学会編「幕末維新外交史料集成 第3巻」
河合勝著「日本古典奇術「胡蝶の舞」について」
愛知江南短期大学紀要37(2008)

- 取材協力: 西應寺
北條雅道住職



info 西應寺
芝2-25-6
TEL 03-3451-2276

ジャマイカ大使館

訪問記

イギリスから独立50周年を迎えたジャマイカ

植民地としての過酷な歴史

1494年にコロンブスがジャマイカの地に上陸してからスペイン、続いてイギリスが統治し、サトウキビやタバコの栽培のため多くの奴隷が労働力として西アフリカ(現在のガーナやナイジェリアなど)から連れられて来ました。ジャマイカではヨーロッパと南北アメリカの間を航行する貿易船に食糧を補給する目的でプランテーション(大規模な農園での生産)が始まりましたが、カリブ海の中心という有利な位置から貿易船を襲う海賊の拠点となりました。



ジャマイカといえば何を思い浮かべますか? レゲエの陽気な音楽やドレッドヘアにカラフルな髪飾り、なんとなく知っているけれど、どんな人達がどんな暮らしをしているのか想像するのは難しいかもしれません。ジャマイカはオリンピック陸上のウサイン・ボルト選手の母国であり、コーヒー豆のジャマイカブルーマウンテンの産地、古くはカリブ海の海賊が拠点とした港がある島としても知られています。日本からはとても遠い国ですが、青く美しい海に囲まれたジャマイカの駐日大使であるクローディア・セシール・バーンス大使(写真)にお話を伺いました。

ジャマイカの歴史や文化について詳しく話してくださったバーンス大使

18世紀には、砂糖の生産でイギリスが統治する最も有益な植民地の一つとなりました。その後、アフリカ出身のジャマイカ人が中心となって自由を勝ち取り、1962年に独立しました。

ジャマイカは人種と文化のつぼ

国民のほとんどはアフリカ系ですが、インドや中国、ヨーロッパからの移民も多く、多民族国家になったため、国の標語は「Out of Many, One People」(たくさんの民族からなる一つの国民)だそうです。

今年はイギリスから独立してちょうど50周年にあたり、建国記念日である8月6日を迎え、お祝いのイベントや行事が催されています。

自分たちのルーツである、西アフリカから連れてこられた祖先たちが、生き残るすべとして陽気さや忍耐力、自立心を育んできたことをとても誇りに

国旗の意味
 ■ 緑=豊かな自然
 ■ ゴールド=太陽、希望
 ■ 黒=強さ、創造性



● 人口...約261万人
 ● 言語...英語、パトワ語

思っているそうです。

スペイン統治の名残をとどめる地名やインドから伝わったターバン、中国の人々が持ち込んだ米を食べる習慣など、様々な国の文化が融合し、独特な文化やファッションが生まれ、受け継がれています。ジャマイカの人々が愛する歌や踊りも独自の様式に発展し、特にレゲエ音楽が有名になりましたが、ゴスペルからクラシックまで幅広く親しまれているとのこと。

美味しいコーヒーを育む豊富な自然

また、ジャマイカはジャマイカブルーマウンテンコーヒー豆の産地としても、よく知られています。ジャマイカブルーマウンテンは苦味が少なく、香りに奥行きがあり、酸味や甘みなど全ての調和が繊細で上品なことから、プレミアムブランドとなりました。

ジャマイカの東部に位置するブルーマウンテン山脈の標高800mから1,200mまでの間でしか生産されず、生産量が希少であることも、その価値をさらに高めているようです。

ジャマイカは山や森の多い島で、120もの川が流れています。島の北側と南側の海岸線は美しいビーチリゾートになっており毎年約250万人もの観光客が訪れています。バーンス大使は「文化の交流のためにも、自由で陽気な



ハナムーンでも人気のビーチリゾート



竹のいかだで川下り (写真提供: ジャマイカ政府観光局)

ライフスタイルを体験するためにも、ぜひ一度ジャマイカを訪れてみてください!とおっしゃっていました。

ジャマイカの文化に触れるなら

今年で8回目を迎えた「ワンラブジャマイカフェスティバル」は毎年5月に代々木公園で開催されています。「ふれあまつりだ、芝地区!!」(今年は6月2日開催)でもジャマイカ大使館のブースでジャマイカ料理を提供しています。

(文:写真 ■ 田宗 子)

Info ジャマイカ大使館
 愛宕1-1-11
 虎ノ門八東ビル2階
 TEL 03-3435-1861

芝の食文化

口の中に入るに甘くとろけて誠に美味なり

子どもから大人まで、誰もが大好きというアイスクリーム。乳製品は苦手という人もアイスクリームは別だそうで、好きなデザートアンケートでも1位にランキングされています。

日本にアイスクリームが登場したのは、文明開化の波が打ち寄せてきた明治2年(1869)、勝海舟に随行して薩摩丸で渡米した時にアイスクリームの製法を覚えてきた町田房蔵が、横浜馬車道の店先に「あいすくりん」と書いたのほりを立て掛け日本人で初めてアイスクリームを製造販売した、といわれています。この時の値段は50銭。米が1升5銭の時代でしたから、いかに高嶺の花だったかがわかります。

やがて明治中期から大正にかけて、アイスクリーム

の製造機械が輸入されると次々にメーカーやレストランが商売を始め、一般に大流行して人気は今日まで続いています。

年配の方には足の付いた銀の器に丸いニラアイスクリームが盛られ、ウエハースが添えられた姿が懐かしく思い出されることでしょう。

出来たての新鮮さにこだわって販売している虎ノ門3丁目のホームメイドアイスクリームショップ「SOWA(ソワ)」は、手作りならではのアイスクリームを食べてもらいたいとの思いから早川練次さんが昭和30年(1955)に創業しました。

当時は冷凍機などなく、周りに氷を入れた製造機に原料の砂糖と練乳、卵を入れ、ハンドルを手で回して作りました。当初はレストランや結婚式場などの業者が対象でしたが、2~3種類ほどを近所のお客さんにも店頭販売していました。やがて近隣に大型の

アメリカンクラシックをほうふつさせるレトロな看板



左から初代早川練次さん、2代目の早川恵子さん、将来の3代目松浦大祐さん、香奈さんご夫妻

※タイトルは「アイスクリームの歴史物語」ローラ・ワイズ著、竹田円訳、原書房より引用

Info SOWA(ソワ)
 虎ノ門3-19-9
 TEL 03-3434-5425

カラフルに並んだたくさんアイスクリームは選ぶのに迷うほど



ホテルが次々と出現し、そこからの注文が殺到したので製造機械を導入してフル回転、大繁盛しました。

今は娘の早川恵子さんが店を切り盛りし、恵子さんの息子の松浦大祐さんが隣室の工場で製造を担っています。「3代目が店を継いでくれるまで見届けたい」と、練次さんは御歳89歳とは見えなほほど矍鑠として今も時々店に出られています。

店には常時40種類のアイスクリームが並んでいます。牛乳、生クリーム、無塩バターをベースにさまざまな新鮮なフルーツや野菜を加えます。[良質の素材を使っていますので色も味もとても自然です]と恵子さん。上品な甘さが口中にやさしく広がってとろけていき、こんなにも味わい深いアイスクリームに出会えたことに感動します。「今はヘルシー志向が高いため、もっと豆乳を使った製品を考え試作しています」と、熱心に研究に取り組んでおられます。

(文 ■ 千葉 みな子 / 写真 ■ 町田 明夫)

港区庁舎前芝公園で向き合っている「ペルリ提督の像」と「万延元年遣米使節記念碑」の時代を振り返って...



左:ペルリ提督の像 右:万延元年遣米使節記念碑

朝の木漏れ日に静かにたたずむ「ペルリ(以下:ペリー)提督の像」。黒船で来航したペリーが生きた19世紀中頃の世界情勢はどのようなものだったろうか? たった30年ほどの間にイギリスの産業革命(1760~1840年代)のもたらした世界への影響を、年を追って、冷静に見てみる。

1840(天保11)~42(天保13) 清・英アヘン戦争-幕府はこの順末を「オランダ風説書」や清・魏源著「海国図志」で知っていた。

1846(弘化3)~48(弘化5) 米・メキシコ戦争(死者およそ2万人) ペリー(ニシシツビ号艦長・副司令官)がペラクルス上陸戦指揮

1850(嘉永3)~64(元治元) 清・太平天国の乱(死者およそ2千万人)

1853(嘉永6) ペリー(東インド艦隊司令官)がサセカハナ号ほか4隻で直接来航し、江戸湾に投錨

1854(安政元) 日米和親条約締結。これにより日本は世界時計にみずからリンクした。海上保安庁水路部編「日本水路史1871~1971」の書き出しに、「日本は、四周を海に囲まれた島国である。海を知らずにその発展も防備も考えられない。海は世界を分かちもするし、世界を結びもする。国交・経済・文化の各般にわたり、これらをつ結び、また分断もするのが海洋の実態であった。こうした観点から顧みると、徳川時代において、1635年に海外渡航を禁止した鎖国政策の実施は、実に200年余のおくれを日本の各方面にもたらした惜しい年月であった」とある。

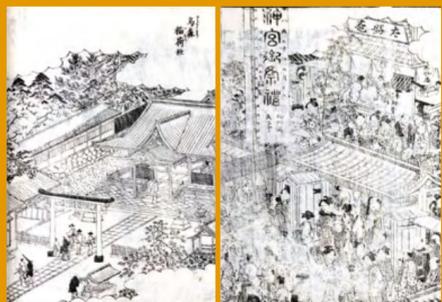
1855(安政2) 寺尾寿(東京帝国大学附属東京天文台初代台長、31年間に在職)生まれる。1892(明治25)東京天文台(麻布台2丁目)に星間観測で日本経緯度原点(絶対的基準)が置かれる。これによって日本は世界地図に科学的にリンクしたことになる。

1858(安政5) 日米修好通商条約に調印(徳川家茂)一神奈川(東八景島津に碇泊していた駐日総領事ハリス乗船のポーハタン号上で。

1860(万延元) 万延元年遣米使節団(77人)がポーハタン号で批准書交換のためサンフランシスコ、パナマ経由でフシントンへ渡航



日本経緯度原点



【図-1】鳥森稲荷(現・鳥森神社) 【図-2】祭礼のにぎわいの様子 (図:「江戸名所図会」(港郷土資料館提供))

活気に満ちた芝地区

江戸庶民に人気のあった芝地区。人々は、季節ごとの伝統行事を大切に、にぎわいのある活気に満ちたまちを作り上げてきました。その伝統は、今も私たちに引き継がれています。

(文 ■ 清田 和美)

Info ● 鳥森神社 新橋2-15-5 TEL 03-3591-7865 ● 芝大神宮 芝大門1-12-7 TEL 03-3431-4802

江戸庶民の憩いの場「芝界限」

「芝っ子」は、粋な名前

新橋から芝公園に向かって歩きますと、近代的なビルが林立しています。この辺りは江戸時代から常に、にぎわいと活気にあふれた「庶民のまち」として知られています。

「芝で生まれて神田で育ち、今じゃ火消の纏持ち」と唄われたように、「芝」生まれはそれを誇りにしております。「神田っ子」「深川っ子」と並び称された「芝っ子」という言葉は、心地よい響きを伝えてくれます。

庶民の娯楽は、神社仏閣参り

とにもかくにも、江戸庶民はよく歩きました。斎藤月岑著「東都歳事記」によりますと、お正月の「初日の出」に始まり、「恵方参」「七福神参」「江戸六地藏参」「毘沙門天参」等、あちこちへと歩き回った様子がよくわかります。いわば「小さな旅」でもいうのでしょうか。

そこで、芝地区のなかで大勢の庶民に親しまれた場所を巡ってみましょう。

まず最初は、鳥森神社です。江戸の頃は、「鳥森稲荷」と言われており、こんな伝説があります。天慶(938-947)の時、藤原秀郷が平将門を討討するために戦勝を祈願した際、白狐が白羽の矢をくわえて秀郷に与えます。その矢を携え、乱を鎮圧した秀郷は、祈願成就の御礼として社を創建しようとしたところ、ある夜、狐が来て「神鳥のむらがる所に霊地あり」と伝えました。

その教えに従い社地を探していると、桜田の郷にひとつの森がありました。この地が「霊地」であると、御社を建立したということです。それが、鳥森稲荷です。江戸庶民に愛され、ことに2月最初の午の日に行われる「初午」の祭りににぎわいは大変だったようです。「東都歳事記」では「初午の二日以前より幸橋御門外へ仮屋を補理して(中略)町々大帳を立て獅子頭・花出し等を飾り、挑灯等多く出だす」と記されています【図-1】。

次は、芝神明様です。創建は、寛弘2年(1005)。現在は、芝大神宮と言われていますが、庶民は、「神明様」と親しみを込めて呼んでおります。ここの例大祭は、毎年9月11日から21日まで11日間にも及ぶため「だらだ祭り」とも言われます。生妻・千木箱・甘酒等が有名で、これらを目当てに、大勢の人々が見物にきました。

また、神明界限には、書物問屋がたくさんありました。文政7年(1824)刊の「江戸買物独案内」には、「尚古堂」「小酒屋」「泉榮堂」等の屋号が掲載されています。その他にも、菓子屋・硝子細工屋・扇子屋等の店もあり、人々は買い物を楽しんでいたことでしょう。参勤交代で江戸に上った武士も、にぎわいのあるこの地域で様々な品物を購入し、「江戸土産」として郷里へ持ち帰ったこと【図-2】。

終戦の日 特集

戦死者は約310万人(歴代政府答弁)と言われる太平洋戦争。戦後67年目となる今年も8月15日の終戦の日と旧盆を迎えました。終戦を迎える頃、ここ東京は連日空襲を受け、まさに焼け野原からの復興を果たしました。その原動力は何だったのでしょうか。

折しも東日本大震災の復興が進行している今だからこそ“あの頃”を振り返りたいと思います。



闇市

戦後、新橋駅西口には闇露店がぎっしりと並んでいました。そこでは生活必需品であれば、欲しい品物はなんでもそろったそうです。東京の闇露店は戦後半年間に急激に増え、7万6,000軒を数えたといわれています。



港郷土資料館提供

女性参政権

戦後最初の選挙は昭和21年(1946)4月10日に行われました。これは前年の12月17日の選挙法改正により20歳以上の男女が投票権を得た初めての選挙で、39名の女性衆議院議員が誕生しました。写真は参議院議員選挙の様子。



港郷土資料館提供

あの頃、戦争があった



取材にご協力いただいた
大塚多恵子さん、勝美さんご夫妻

昭和20年(1945)8月15日の終戦以後、日本は戦災からの復興が生活のために大きな課題になりました。その時代を乗り越えてきた大塚多恵子さん、勝美さんご夫妻。多恵さんは直面する壁を乗り越えるために知恵を働かせ、勝美さんは日本の将来を見つめ、技術力をもってゼロからの困難に立ち向かい、生きがいを持って一所懸命に過ごされた大正の世代の生き方を聞き書きさせていただきました。

多恵子さん(88歳)のお話

昭和20年(1945)5月25日のアメリカ空軍の爆撃による空襲で、ここ田村町(現西新橋1丁目)一带の家はほとんど焼けてしまいました。焼夷弾が落ちると火の粉が飛び散り、木造の家が次々と燃え、その中を髪の毛が燃えるのを防ぐため防空頭巾をかぶって女子は逃げました。怖かったですね。その日は父とは別々に、約束していた場所の新橋駅前へ逃げて行きました。駅近くの第一ホテルが開放されていたので、そこで避難生活をしました。類焼から3日後でも道路は熱いまま、大切にしていたゴム底靴で歩いたらすぐにボロボロになるほどでした。焼け野原でしたから、町内の外堀通り側にあった桜田ビルが外側だけ焼け残っていたので、畳屋さんが畳を持ち込み、一時近所の人たちと共同生活をしていました。その後田村町に再び家を建てました。

実家はクリーニング業を営んでおりまして、父、母、兄、妹と私の5人家族で、戦争中は母と妹は信州に疎開し、兄は海軍予備学生で、父と私はここ田村町に残っていました。私はこの地で生まれ、南桜小学校を卒業し、麹町高等女学校を経て御茶水家庭寮に進学し、家業に従事し20代で終戦を迎えました。天皇陛下の終戦の詔書のラジオ放送は、食料を調達に行った長野で聴きました。



戦災から復興への歩み

終戦で何を思ったかですか。そうですね、戦争が終わったことに安堵しましたし、アメリカが来るというのだから女性の力が強くなるかとも思いましたね。クリーニング業ですから、新橋という土地柄、戦後進駐軍からワイシャツをはじめハンカチや下着まで色々洗濯物が来るようになり、外国の言葉を覚えなくてはいけないと思いました。「英語」が必要になると思いましたので、「日米会話学院」に通いました。お陰さまで、仕事でトラブルがあっても英語で困ることがなくなりました。

多恵さんは、現在も青少年の健全育成と防犯のために、警視庁所管の愛宕母の会の会長など公的な仕事を続けられています。

勝美さん(90歳)のお話

東京帝国大学工学部土木科に入学、海軍実験所に動員されセメントの研究中に終戦を迎え、大学に戻り卒業しました。戦時中の思い出といえば、食事にジャガイモ、サツマイモなどの芋ばかり食べていたことを覚えています。

内務省に入り、戦災復興院に勤めました。後に建設省(現国土交通省)道路局に所属し、高速道路の調査研究を担当し、以降道路一筋の人生です。当時は高速道路というもの知られておらず、移動手段は鉄道が主流でした。アメリカからラルフ・ワトキンス調査団が来て、復興とその後には工業国日本になるためには名古屋と神戸間の名神高速道路が必要であると説きました。私は昭和26年(1951)から名神高速道路の調査、設計などにに関わり、建設省から国連の研究フェローシップを得てアメリカに研究に行きました。具体的な高速道路建設段階になると資金調達のためにワシントンの世界銀行に行きました。日本の自動車産業の発展もあって高速道路の必要性が高まっていたし、さらに日本道路公団に入ってから私は東名高速道路の建設にも携わりました。

昨年の東日本大震災の折にも、2日後には東北地方の高速道路が復旧し、復興のために道路が役立っていました。道路には社会の基盤として重要な役割があることを再確認しました。

英会話がきっかけで出会った大塚さんご夫妻は饗鏝とされ、聞き書きに快く応じてくださいました。ありがとうございました。

(文 ■ 森 明)

私の祖母と母の戦争体験

■ 当時まだ珍しい中華料理店を開業

私の祖母が、京橋区南鍛冶町から芝区三田四国町(現芝3丁目・現在はセレスティンホテルが建つ)に引越して来たのは明治41年(1908)。祖母が3歳のときでした。

祖母は小さい頃とても体が弱く、当時は郊外であったこの地へ来たそうです。まだ日比谷通りを馬が荷物を引いているのどかな時代でした。

実家はもともと薬屋を営んでいましたが、祖父と結婚してから、調味料や缶詰を扱うようになり、昭和の初めの頃にはまだ珍しかった中華料理店も始めました。

昭和16年(1941)11月に祖父が亡くなり、祖母は一人娘の母を育てながら商売を切り盛りしていましたが、同年、太平洋戦争が始まり、物資が統制され配給制になったり、従業員が軍隊に召集されたりして、商売をやめざるを得なくなりました。

■ 母が語る東京大空襲の記憶

昭和20年(1945)5月25日真夜中、空襲警報発令と同時に防空壕に入る間もなく、B29は三田四国町にも焼夷弾を雨あられと降らせました。そのとき祖母は、隣に立っていたKさんの腿に焼夷弾が突き刺さったため、家のことはかまわずKさんを担架でかついで、田町駅から札の辻へ、赤羽橋、中の橋へと手当てをしてもらうために駆け回ったそうです。当時17歳だった母は、火ハタキやバケツリレーで、我が家を飲み込んでいく炎と応戦していました。けれど、燃え盛る炎にはかなわず、防火用水の水をかぶりながら、日比谷通りを田町方面に向かって逃げ、石造りだった日本電気株式会社の建物で一夜を明かしたそうです。

翌日、祖母と母は焼け野原と化した三田四国町を後にして池袋まで歩き、列車の窓から押し込まれながら、まさに着の身着のまま、従業員の実家を頼って埼玉県大里郡寄居町のお寺を借りて疎開することになり、再びこの地に戻ってきたのは終戦後の同年9月のことでした。

■ 終戦後、疎開先から跡形もない我が家へ

戻ってはきたものの、我が家は跡形もありませんでしたので、そこに焼けトタンでバラックを建てました。焼け跡にカボチャを作ったり、電車で世田谷まで買い出しに行ったり、焼け野原での生活はしばらく続きました。戦地から復員してきた従業員たちも、故郷に帰らず祖母を頼って三田四国町に戻って来ました。祖母はこのままでは生活が続かないと、知り合いのついでに入れた材木で家を建て直し、再び商売を始めることにしました。

■ 干鰯とおからで作るコロッケに長蛇の列が…

食糧事情の悪い中、北海道の知り合いから手に入れた干鰯とおからでコロッケを作り、売り出しました。するとお店の前にはコロッケを買う人で長蛇の列ができて、警察官が事情を聞きに飛んで来るほどだったそうです。また、シューマイを作り、終戦当時多くの人が集まった闇市ではなく、銀座にセールスに行き、商店の店先に置いてもらうと、それも飛ぶように売れたそうです。その後、お店は「中華料理 寿恵廣」として、昭和49年(1974)に廃業するまで、地元企業や近隣の学校関係の方々、三田四国町の大勢の方々にご利用いただきました。

太平洋戦争を知らない世代の私にとって、戦争の悲惨さや戦後復興の苦労は、写真・映像、体験談等で聞きすることはあっても、現代史の中の一つの出来事ではありませんでした。今回、母を取材することで、平和を守ることの大切さを考える大変良い機会となりました。

(文 ■ 菊池 弓可)
●写真提供: 菊池 絢江

戦後に再建した寿恵廣。現在のオリックスビルの角から撮影。この場所には現在セレスティンホテルが建ち、右奥には芝高齢者相談センターがある(昭和20年代の撮影)



中列一番右が祖母・小宮山喜久(昭和30年代の撮影)



母の菊池絢江

TOKYO TOWER



「ちょっと東京タワーまで！」〜芝に根付いたランドマーク〜

芝の名所のひとつ、東京タワー。大空を背景にそびえ立つ美しさと迫力、そして夜の幻想的なライトアップに、人々がたまたぐんで見上げている光景をよく目にします。そんな東京タワーの塔頂上で現在、改修工事が始まっていることに、お気付きの方もいらっしゃるのではないでしょうか。日本電波塔株式会社広報・マルチメディア部長澤田健さんにお話を伺ったところ、地上アナログテレビ放送終了に伴う鉄塔上部の改修・補強工事に加えて、東日本大震災で被災した最頂部の更新(取り換え)も行われているそうです。東京タワーは、今も地上デジタル放送を発信していますが、地デジの送信機能が東京スカイツリーに完全移行した後も、予備送信所としてバックアップ機能を担うほか、放送大学やFM放送の送信機能等が残ります。東京タワーの展望台からは、360度のパノラマで、東京中を見渡すことができます。普段見慣れているオフィスビルや、散策してきた神社や公園などがある身近な芝のまちを高いところから再確認してみるのも面白い発見がありそうです。また、東京タワー正面入り口の広場では、気軽に参加して楽しめる様々なイベントが行われています。最近では、「東京タワーマルシェ」(マルシェ=フランス語で市場を意味します。)が開催され、各地の生産者が集まり、新鮮な旬の野菜や食べ物などが販売されました。今回の取材時期は、ちょうど夏至の日で、「キャンドルナイト〜でんきを消して、節電エコ

まつり〜」のイベントが行われていました。少し早めの納涼気分も手伝い、仕事帰りにちょっと足を運んでみました。キャンドルナイトとは、夏至と冬至の日に、午後8時から10時までの2時間、照明を消してキャンドル(ろうそく)を灯し、ゆったりと過ごしてみようという世界的な運動です。今年で10回目を迎える東京タワー・キャンドルナイトは、梅雨の時期には珍しい台風一過の夜で、天気に恵まれました。カラフルで大きささまざまなキャンドルが灯された会場は、親子連れや浴衣姿の人などでにぎわっていました。打楽器などの生演奏の後、午後8時には、カウントダウンとともに、東京タワーの照明が一斉に、ライトダウン! 印象的だったのは、オレンジ色のタワーの灯りが消え、薄暗くなっても、会場の人々が思い思いに東京タワーを何度も見上げていることでした。ライトダウン後の東京タワーも、うっすらと静寂に包まれてとても美しいのです。決して無機質ではなく温かみもち、今もなお、東京タワーは、人の心を引き付けるものがあるのだと、改めて感じました。芝地区には、身近で気軽に訪れられる歴史的名所や、観光スポットがあり、そして広い公園では豊かな自然に触れることができます。そんな身近なシーンのひとつに、東京タワーも加えてみてはいかがでしょうか? 楽しい出会いや、新しい発見があるかもしれません。

(文・写真 ■ 桑原 庸嘉子)

info 東京タワー
芝公園4-2-8
TEL 03-3433-5111



みなと保健所1階 「カフェ フェリーチェ」 caffè Felice のレシピをご紹介します

都営大江戸線赤羽橋駅の近くにある、みなと保健所1階に、社会福祉法人 家庭授産奨励会 西麻布作業所が運営する「カフェ フェリーチェ」があります。こちらでは、障害のある人が接客や厨房での仕事を通して、社会参加をめざして働いています。今春オープンした真新しく明るい店内では、人気のオムライスや手づくりのチーズケーキなどが提供されています。今回はメニューの中から、ひと手間かけたこだわりの「ビーフカレー」のレシピを店長の杉田さんに教えていただきました。

(文 ■ 藤原 敦子)



ビーフカレー

【材 料】(4人分)
牛肉肩ブロック 200g
玉ねぎ 200g
カレールー 4人分
赤ワイン 100cc
塩、こしょう 適量
サラダ油 大さじ2
水 大さじ12

【作り方】
① 牛肉は角切り一口大に切ります。フライパンにサラダ油大さじ1を温め、牛肉を入れ、塩、こしょうをしながら強火で焦げ目が付く程度に炒め、取り出します。
② フライパンにサラダ油大さじ1を温め、みじん切りにした玉ねぎを炒めます。玉ねぎが透き通ってきたら、圧力鍋に移し、①の肉と赤ワインを入れて3時間弱火にかけます。途中で様子を見ながら差し水(材料外)をします。
③ ②の圧力鍋に蓋をして圧力がかけたら、火を消して3時間置きます。鍋が冷めたら、蓋をしたまま冷蔵庫に入れ、一晩寝かせて冷やします。
④ 翌日、③の蓋を開け、1ℓの水を入れて火にかけ、ひと煮立ちさせます。

火を消してカレールーを入れ、3時間蒸らし、混ぜればできあがり。



info カフェ フェリーチェ
三田1-4-10 みなと保健所1階
TEL 03-6400-0079
●営業時間:午前9時30分〜午後4時30分
(ラストオーダー:午後4時)
●ランチタイム:午前11時30分〜午後1時30分
(ラストオーダー:午後1時)
●定休日:土・日・曜・祝日、年末年始

持ち寄る喜び、そして豊かさ…

小さい規模の「屋食会」から大きい規模の「おまつり」まで、芝の家ではみんなが何かを持ち寄る形式のイベントを開催しています。持ち寄ることの喜びは、支えてもらうこと、助けてもらうことの喜びとは別にある気がします。というのも、人に助けてもらうことは、ありがたいことであると同時に多少の遠慮や恐縮がつきもの。その点、持ち寄る関係は、みんなで持ち寄ったものを分かち合う対等な関係。屋食会のメニューが増える、おまつりのイベント内容が充実するなどのメリットだけでなく、自分がそのコミュニティの一員であることの実感やイベントを共に作りあげた連帯感など、一人では味わうことができない気持ちを感じられる魅力があります。

お互いに「お疲れさま。大変だったけど、楽しかったですね。」と言い合えるのが、持ち寄り形式のイベントの醍醐味ではないでしょうか。地域コミュニティという様々な人が集まる場で、品物を持ち寄る際に大事なことを一つ。それは、各自が持ち寄るものについては文句を言わないということ。一人ひとりができることには違いがあり、それを理解した上でお互いに気兼ねなく気持ちよく関わることが、持続的な活動を可能にするはず。何かを持ち寄ることは、みんなの気持ちを持ち寄ることなのかもしれません。

info 芝の地域力再発見事業拠点「芝の家」
芝3-26-10
TEL 03-3453-0474

●月・火・木 午前11時〜午後4時開室
水・金・土 午後1時〜6時開室
●ホームページ <http://www.shibanoie.net/>

告知 ① 持ち寄り屋食会 もくもく

毎月第3土曜日に開かれている屋食会で、参加者はおかずや果物など、一人1品を持ち寄ります。出来合いのものを買ってきて大丈夫。集まった人の数だけ食べ物たちが並び、さながらバイキング料理のようです。一人の食事が寂しいからと勇気を出して初めて参加してくれる人、毎月楽しみに来てくれる人、偶然居合わせてつまみ食いする子どもたち。おいしい料理を囲めば、自然と会話ははずみます。

日 時 毎月第3土曜 正午〜午後1時30分
場 所 芝の家
持ちもの おかずや果物など一人1品

どなたでも歓迎。
参加無料

「芝の家」から…



告知 ② 第4回 いろはにほへっと芝まつり



地域内外の人が得意なこと・やってみたいことを持ち寄ってつくりあげるおまつりです。一人ができること、考えつことに限界がありますが、このおまつりは、関わっている一人ひとりの持ち味が合わさり、また年を重ねることに深みも増えています。毎年恒例の屋台から子どもも大人も楽しめるイベントまで、多彩なプログラムを用意してお待ちしています。

日 時 10月21日(日)
(詳細な時間やプログラムは決まり次第、区の掲示板や芝の家ホームページでお知らせします)
場 所 芝3丁目いろは通り(芝の家前の通り)
内 容 焼きそば、綿あめ、ビール、駄菓子屋、ペーゴマ大会、ミニFMラジオ局、いろは芸術祭など

芝地区MAP

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。ウォーキングマップとしてご利用ください。



- ① 戸板女子短期大学 1P 7P
- ② 西徳寺・みなと幼稚園 1P
- ③ ジャマイカ大使館 2P
- ④ 鳥森神社 2P
- ⑤ 芝大神宮 2P
- ⑥ SOWA(ソウワ) 3P
- ⑦ ペルリ提督の像 3P
- ⑧ 万延元年進米使節記念碑 3P

- ⑨ 東京タワー 6P
- ⑩ カフェ フェリーチェ 6P (みなと保健所)
- ⑪ 芝の地域力再発見事業拠点「芝の家」7P
- ⑫ プラザ神明・神明いきいきプラザ 8P
- ⑬ 虎ノ門いきいきプラザ 8P



9月1日(土) いよいよ「プラザ神明」が開設されます

旧神明小学校グラウンド跡地(浜松町1丁目)に建設をしていた神明保育園・神明子ども中高生プラザ・神明いきいきプラザが9月1日(土)開設されます。建物の愛称は公募により「プラザ神明」となりました。今回は施設の概要について案内します。

- ◎ **場所** 浜松町1-6-7(エコプラザの東側になります)
- ◎ **規模** 地下1階、地上8階建て(延べ面積 9907.24m²)

◎ 施設概要及び特色

■ 保育園：西側1階から3階

定員170名の大型保育園です。また一時保育も実施します。浜松町2丁目の神明保育室の園児を引き継ぐとともに、定員増を行います。

■ 子ども中高生プラザ：東側5階及び6階の一部

乳幼児から中高生までが使用可能な施設です。乳幼児室、キッズプレイルーム、学童クラブ室、工作室、パソコンコーナー、ダンススタジオ、図書室・学習室、音楽スタジオ、多目的室等

■ いきいきプラザ：東側4階を中心に1階、2階、6階、8階に諸室を配置します。

高齢者用の施設としては敬老・娯楽教養室、浴室のほか、貸室としては集會室、和室、音楽室、ダンススタジオ、展示ギャラリー、体育館(子ども中高生プラザと共用)、リハーサル室、介護予防・健康づくりの場としてトレーニングルーム、トレーニングスペースなどがあります。

- ◎ **内覧会** 9月1日の開設に先立ち、内覧会を8月28日(火)午後2時から5時まで開催します。ご希望の方は直接来館してください。(予約不要)



● 問い合わせ

- 神明保育園 TEL 03-5733-6822
- 神明子ども中高生プラザ TEL 03-5733-5199
- 神明いきいきプラザ TEL 03-3436-2500
(8/31までは準備室として対応します)

※プラザ神明の開設に伴い、地域の皆さんに愛されてきました新橋児童館・福祉会館、芝公園児童館・福祉会館は8月31日(金)をもって閉館となります。長年のご利用ありがとうございました。

芝地区地域事業のお知らせ

高齢者の買い物支援



近隣に日用品を購入できる店舗が少ない、重い購入品を運ぶことができない等、日常の買い物が困難な状況にある地域の高齢者に対して買い物支援を行います。

サービスの内容

(1) 商品の注文・受け取りを代行し、虎ノ門いきいきプラザまで運搬します

注文いただいた米やしょうゆ、みそ、飲料水等の重い商品や持ち運びが大変な商品を虎ノ門いきいきプラザに運搬し、買い物のお手伝いをします。

(2) 購入品の運搬のお手伝いをします

買い求めた商品が重くて自宅までの運搬が大変な人には、その購入品を自宅まで一緒に運ぶお手伝いをします。

☆(1)、(2)のサービスを受けるには、事前の申込みが必要です☆

対象

芝地区在住の65歳以上のひとり暮らし高齢者世帯または高齢者のみ世帯(介護保険法による要介護または要支援の認定を受け、同法の居宅サービスを受けることができる人を除く)

平成24年度実施日時および場所

- **日時** 毎月第2・4土曜正午～午後2時
- **場所** 虎ノ門いきいきプラザ1階ロビー
- **実施区域** 「虎ノ門」「愛宕」「西新橋」「新橋」 ☆実施区域は順次拡大していきます☆
- **費用** 商品の注文サービス50円(利用1回当たり)
商品を自宅まで運搬する同行サービス50円(利用1回当たり)

- 申し込み・問い合わせ 芝地区総合支所協働推進課まちづくり推進担当 TEL 03-3578-3104

らくらくウォーキング教室



ポール(ストック)を使って、負担が軽く、運動効果の高いウォーキングをしませんか。

芝地区の歴史や文化のスポットを巡るので、新たな魅力が発見できるかもしれません。

■ 日程	10月3日～11月17日 全8回 毎週水曜 8回目のみ土曜
■ 時間	午前10時～正午
■ 開催場所	港区芝地区内 ☆神明いきいきプラザが集合場所です☆
■ 対象者	港区在住の65歳以上の人 集合場所までご自身でお越しいただける人に限ります。
■ 定員	15名(申込み多数の場合は、抽選となります)
■ 参加費	無料
■ 締切日	9月14日(金)

- 申し込み・問い合わせ
芝地区総合支所区民課保健福祉係
TEL 03-3578-3161

前回のらくらくウォーキング教室(6月実施)



芝地区まちづくり組織の活動

ホームページを開設しています。「環状2号線新橋地区環境・まちづくり協議会」の紹介や活動内容を掲載しています。また、「環2まちづくりニュース」もダウンロードできます。ぜひご覧ください。

URL <http://k2machikyo.com/>

防災展を開催します

- **期間**：8月30日(木)～9月5日(水)
- **場所**：区役所1階ロビー

- 問い合わせ 芝地区総合支所協働推進課 TEL 03-3578-3121

読者の皆様のご意見を募集しています!



本誌の感想や取り上げてもらいたい情報などをお寄せください。より魅力的な誌面にするための参考にさせていただきます。ご意見をお寄せいただいた方の中から抽選で「旧町名風呂敷」をプレゼント。ご住所・氏名・年齢・職業・ご意見をご記入のうえお送りください。

- ファックスの場合… FAX 03-3578-3180
- 郵送の場合… 〒105-8511 港区芝公園1-5-25

港区芝地区総合支所協働推進課「芝地区地域情報誌」編集室宛

★ 11月20日(火)締め切り ★ ※プレゼント抽選結果の発表は、発送をもって代えさせていただきます



◎旧町名風呂敷

★本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。
天津由理香 / 菊池弓可 / 清田和美 / 桑原庸嘉子 / 坂本純一 / 作田宗子 / 佐藤剛志 / 柴崎郁子 / 柴崎賢一 / 千葉みな子 / 張簡光輝 / 早川由紀 / 日尾佳世 / 日沖剛 / 藤原敦子 / 町田明夫 / 森明 (五十音順 敬称略)

★今後の発行スケジュールは次の通りです。
H24.11.20発行(第25号)、H25.2.20発行(第26号)、H25.5.20発行(第27号)
H25.8.20発行(第28号)。

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設にて配布しています。

港区芝地区総合支所協働推進課

所在地：〒105-8511 港区芝公園1丁目5番25号(港区役所2階)
TEL：03-3578-3193 FAX：03-3578-3180
ホームページ：http://www.city.minato.tokyo.jp/